

韓国の旅 さくら研修旅行

昨年の吉野山研修旅行について第一回目の研修旅行を行。二八名が参加した。九日夜乗船出発、一二日朝帰着という船中泊二夜、ホテル一夜という足掛け四日丸二日という旅日程。釜山、鎮海、慶州という桜の名所を堪能した。

画手紙の上手な方が何人もある。下図は最高齢八〇歳



台の宍戸さんの作（紀行文投稿者）。上右は鎮海余佐公園にて。下右は余佐山公園。上左は慶州古墳公園。下左は、慶州の焼肉昼食。

桜の名所の長橋山公園の爛漫の花を満喫し、余佐川畔の見事な桜トンネルと、川沿いに咲く菜の花の色彩のコントラストの競演に毛醉い痴れた。次に訪れた帝王山公園では三五〇段の石段を登つて展望台へ立つた時は、体力の消耗も甚だしく、眼下の景観を眺める余裕すら無かつた。

折から「桜まつり」開催中の鎮海市では、桜に対す
る行政の支援策が十分に伺える、市中至るところ桜並
木の街路樹に彩られ、まさに全市が万朵（ばんだ）の
桜に埋め尽くされた観には瞠目した。

早朝釜山港へ着岸した。ハ時三〇分チャーターのバスで桜を見に鎮海市へ向けて出発。旅行中のガイドは日本語の堪能な黄（コウ）さん（韓国女性）で、時折冗談も交えた語り口は、道中の雰囲気を常に明るく盛り上げて呉れた。人口三七〇万の釜山市では、林立する高層ビルや田園地帯の整備されたビニールハウス群に圧倒された。

A watercolor painting of a city skyline across a river. In the center, a large suspension bridge spans the water. To the left, there are several buildings of varying heights, some with distinct architectural features like towers or rounded tops. The sky is filled with soft, light-colored clouds. The overall style is loose and artistic, with visible brushstrokes and color washes.



した折、徹底抗戦した李舜臣の軍艦（亀甲船）のことも強い印象として残っている。

やきもきさせたが、短いが芽が出た。とにかく今年まで命脈を保つている。EMありでは昨年九月で一〇〇%、一月で七八%の生存率、EMなしでは九月で五〇%、一月も同じく五〇%だつたが、現状はEMの有無いずれも、そのまま、生き残つてゐる。一七番だけは、今年三月一四日にもEMを投与した。

昨年（二〇〇九年）の七月にEM菌の第一回投与を開始してから丸一年を過ぎた。今年七月初めに梅雨が明けてから、炎熱の猛暑が始まった。もう松が真っ赤になつていいのではないかと心配しながら八月七日、訪れた深坂では意外に皆元気だつた。写真の一七番は、これが枯れなければEMは効果があつたと認めるが、理事長が太鼓判を押した松だ。今年新芽が出るのが遅く、

A tall, thin white pole stands vertically in a green landscape. The pole is positioned on the right side of the frame, extending from the bottom to the top. It is surrounded by green grass and trees in the background.

松枯れ防止実験